



クラスのため 仲間のため 完全燃笑した文化祭！

～行事（文化祭）は練習試合、毎日（の授業と生活）が本番～

運動会に続き、インフルエンザ、新型コロナウイルスの流行で開催が心配された文化祭。当日、数名の生徒が参加できなかったことが残念でなりません。しかし、内容的には本当に素晴らしい文化祭を創りあげたと感心しています。1週間ちょっと前にプレ合唱を実施したときには、1年生の合唱が本当に心配でした。しかし、3年生が1年生に練習を公開してくれ、1年生の声もどんと出るようになり、当日は1年生らしい元気な歌声が体育館に響いていました。3年生のリーダーシップと1年生の成長に喜びを感じました。2年生も積極的に3年生の合唱を見学に行くクラスがあったり、自分たちで計画的に練習する姿にたくましさを感じました。それぞれの学年がそれぞれの良さを発揮した最高の文化祭だったと思います。



最高の文化祭は、決して一人の努力では創ることができません。クラス、学年、そして全校のなかまが、同じ方向を向いて努力したからこそ創りあげることができたのです。それは日々の学級づくり、毎時間の授業と何ら変わりはありません。「いいクラスをつくりたい」、「みんなで勉強が分かるようになりたい」、なかまとそんな思いを共有しながらつくりあげていくのが学級なのです。だからこそ、「行事（文化祭）は練習試合、毎日（の授業と生活）が本番」でなければいけないのです。さて、再び日常生活が始まっています。最高の文化祭を創りあげた仲間と、今度は最高の日常をつくるための日々が始まっているのです。3学期に、クラスの仲間にメッセージを書いたり伝えたりする場面があった時、「私の一番の思い出は、大切なこの仲間たちと過ごしてきた、日々の教室での生活です」と言えるような学級を目指してください。



保護者の皆様へ

校内文化祭、たくさんの保護者の皆様にご参観いただき、本当にありがとうございました。新型コロナウイルスの流行による学級閉鎖、インフルエンザの流行等、大変ご心配をおかけいたしました。生徒たちの頑張りもあり、無事文化祭を終えることができました。湯梨浜中学校のレベルの高い合唱はいかがだったでしょうか？ 特に3年生の合唱はどのクラスも甲乙つけがたい素晴らしいものだったと自負しています。今後も湯梨浜中学校教育に対して、ご理解・ご協力をお願いします。

なお、今週はホームページでも文化祭の特集を組んで紹介していきたいと考えています。ぜひ、そちらの方もご覧ください。

県民スポレク祭の結果

<野球>

湯梨浜 4-9 鳥取北
惜しくも1回戦で惜敗

<バドミントン>

Aブロック

湯梨浜町 1-2 米子市A
湯梨浜町 1-2 北栄町
湯梨浜町 3-0 大山町
予選リーグ3位で敗退

バドミントンは湯梨浜学園中学校と合同で湯梨浜町として出場。

文化祭の様子は、ホームページでもご紹介していきます。ぜひご覧ください。

<https://www.torikyo.ed.jp/yurihama-j/>



1年生 文化祭での成長を日常の授業・生活にいかしていこう



グランプリ 1年2組

課題曲「朝の風に」
グランプリ (銀賞) 1年2組
 自由曲「夢を追いかけて」
準グランプリ (銀賞) 1年1組
 自由曲「Forever」
銅賞 1年3組
 自由曲「Believe」
銅賞 1年4組
 自由曲「歌が息をする」



準グランプリ 1年1組

最優秀指揮者賞 池原 詩織
 優秀指揮者賞 朝倉 風輝
 最優秀伴奏者賞 長棟 和花
 優秀伴奏者賞 河本 姫依



2年生 これからは君たちが湯梨浜中学校を引っ張っていく番である



グランプリ 2年4組

課題曲「夏の日の贈りもの」
グランプリ (金賞) 2年4組
 自由曲「時を越えて」
準グランプリ (金賞) 2年5組
 自由曲「大切なもの」
銀賞 2年1組
 自由曲「旅立ちの時～Asian Dream Song～」
銀賞 2年2組
 自由曲「心の瞳」
銀賞 2年3組
 自由曲「HEIWAの鐘」



準グランプリ 2年5組



最優秀指揮者賞 濱崎 風華
 優秀指揮者賞 杉本 凜空
 最優秀伴奏者賞 橋口日向子
 優秀伴奏者賞 安達 咲貴



3年生 君たちはこの文化祭で「今後目標とされる学年」となった



グランプリ 3年1組

課題曲「旅立ちの日に」
グランプリ (金賞) 3年1組
 自由曲「あなたへ
 ～旅立ちに寄せるメッセージ～」
準グランプリ (金賞) 3年3組
 自由曲「友 ～旅立ちの時～」
金賞 3年2組
 自由曲「手紙 ～拝啓15の君へ～」
金賞 3年4組
 自由曲「ふるさと」



準グランプリ 3年3組



最優秀指揮者賞 森本 柚羽
 優秀指揮者賞 新川 莉央
 最優秀伴奏者賞 杉浦 友紀
 優秀伴奏者賞 長谷日和理



人権劇「消えたい二人」

日常生活の中で自分の居場所、自分の存在意義を見いだせず「消えたい」と思いながら過ごす二人の中学生。そんな二人に「消えたいなら消してあげよう」という少女のささやきが。存在が消えた後に、自分が周りから必要にされていたことに気づくが、残念ながら元の世界には戻れない。ハッピーエンドではない終わりが、よりメッセージ性を高めていた人権劇でした。最後の「消えてしまいたいと思っていてるそこのあなた。今度はあなたを消しにいきますね」という台詞が印象的でした。